

2022年イエローグリーンキャンペーン

5月31日は世界禁煙デー

2022年
5/29日 福島全県
6/6月 ライトアップ

県内各地のランドマーク施設、公共施設
病院、医療機関、職場、家庭

▶▶イエローグリーンライトアップに御協力いただける御施設、御家庭を募集しています。◀◀

2022年
6/4土 市民公開講座
13:30-14:30
in Koriyama

けんしん郡山文化センター

2022年
5/29日 令和4年度
14:00-16:40
世界禁煙デー
山形福島合同イベント

福島県医師会館と山形市市民活動支援センターを結んでのウェビナー発信

第一部 講演 14:10-16:10

- | | |
|---------|---|
| 演題
1 | 山形で行っている喫煙防止教室
天童・東村山地区薬剤師会理事 おいのもり調剤薬局 加藤 淳 |
| 演題
2 | 山形で行っている喫煙防止教室
楯岡中学校養護教諭 土屋 隆子 |
| 演題
3 | レディースクリニックでの禁煙のオススメ
真理子レディースクリニック 伊藤真理子 |
| 演題
4 | イエローグリーンキャンペーンのあゆみ
福島労災病院看護師長 西郡 里美 |
| 演題
5 | 喫煙防止の裾野を広げるがん教育ビデオ
福島県医師会常任理事 齊藤 道也 |
| 演題
6 | 法医学からみた喫煙問題
福島県立医科大学医学部法医学講座准教授 西形 里絵 |

第二部 パネルディスカッション

「無煙社会実現への次の一手」
16:10-16:40

コーディネーター

福島県立医科大学医学部法医学講座教授
黒田 直人

パネラー

福島県医師会事務局長 八巻 秀一
山形市議会議員 高橋 公夫

コメンテーター

郡山薬剤師会理事
調剤薬局ミッテル本部長 菅原 秀樹
山形大学医学部公衆衛生学・衛生学講座教授
今田 恒夫



伝えるのは ア ナ タ ですっ!!

街をイエローグリーンに包んで意志を示そう

Tobacco-freeふくしまは、福島ユナイテッドFCといわきFCを応援しています

主催 Tobacco-free ふくしま NPO法人山形県喫煙問題研究会

共催 福島県 福島県医師会

後援 山形県医師会

令和4年度 世界禁煙デー山形福島合同イベント

【日時】2022年5月29日 日曜日 14:00—16:40

【場所】福島県医師会館と山形市市民活動センターとの二元中継 ウェビナー

【目的】山形県、福島県等における喫煙防止と禁煙推進、禁煙治療

【テーマ】伝えるのはアナタです！！

【主催】Tobacco-free ふくしま NPO法人山形県喫煙問題研究会（YKK）

【共催】福島県、福島県医師会

【後援】山形県医師会、山形県歯科医師会、山形県薬剤師会、山形県看護協会
山形県、山形県教育委員会

【申し込み先】福島県医師会 HP <https://www.fukushima.med.or.jp/ygcarchive/>

山形県医師会 HP

https://www.yamagata.med.or.jp/uploads/contents/kinen/2022_kinen-event-info.pdf

YKK HP <https://www.y-smokefree.net/>

QRコードからも申し込みできます。



総司会：風間咲美(福島県立医科大学医学部先端地域生活習慣病治療学講座准教授)

開会挨拶 14:00—14:10

NPO法人山形県喫煙問題研究会（YKK）会長 山形市立病院済生館 大竹修一

Tobacco-free ふくしま代表 福島県医師会常任理事 齊藤道也

1. 第一部 講演 14:10—16:10

【山形】司会：川合厚子

演題1) 山形で行っている喫煙防止教室～専門職の立場から～

YKK 理事 天童・東村山地区薬剤師会理事 おいのもり調剤薬局 加藤淳

演題2) 山形で行っている喫煙防止教室～輝く自分を作る健康教育の実践～

YKK 理事 楯岡中学校養護教諭 土屋隆子

演題3) レディースクリニックでの禁煙のオススメ～未来の笑顔のために～

YKK 理事 真理子レディースクリニック 伊藤真理子

【福島】司会：風間咲美

演題 1) イエローグリーンキャンペーンのあゆみ

Tobacco-free ふくしま理事 福島労災病院看護師長 西郡里美

演題 2) 喫煙防止の裾野を広げるがん教育ビデオ

Tobacco-free ふくしま代表 福島県医師会常任理事 齊藤道也

演題 3) 法医学からみた喫煙問題 ～タバコの有無で大違い！人生の最期～

Tobacco-free ふくしま監事 事務局

福島県立医科大学医学部法医学講座准教授 西形里絵

2. 第二部 パネルディスカッション 16：10—16：40

【コーディネーター】

Tobacco-free ふくしま理事 事務局長 福島県医師会常任理事

福島県立医科大学医学部法医学講座教授 黒田直人

【Lecture】

1) Tobacco-free ふくしま理事 福島県医師会事務局長 八巻秀一

2) YKK 会員 山形市議会議員 高橋公夫

【コメンテーター】

Tobacco-free ふくしま理事 郡山薬剤師会理事 調剤薬局ミッテル本部部長 菅原秀樹

山形県医師会理事 山形大学医学部公衆衛生学・衛生学講座教授 今田恒夫

閉会挨拶

Tobacco-free ふくしま副代表 福島県医師会常任理事 坪井病院理事長 坪井永保

NPO法人山形県喫煙問題研究会副会長 山形県医師会禁煙推進委員会委員長
社会医療法人公徳会トータルヘルスクリニック院長 川合厚子

世界禁煙デー 山形・福島合同イベントに寄せて

NPO 法人山形県喫煙問題研究会

会長 大竹 修一



2022 年度の世界禁煙デーのイベントは「Tobacco-free ふくしま」との合同研修会となりました。合同開催の申し入れを、快く受け入れてくださり感謝しています。企画内容の検討や、開催の受付・Webinar などの Web 運用など多大なご支援をいただきました。機動的で迅速な対応に驚かされて、大変、刺激をうけながら準備を進めることができました。尽力いただいた関係の皆様へ、厚く、お礼を申し上げます。

今回の研修会は、両県で先進的な取り組みをしている方 6 名にお話をお聞きします。山形からは、天童市で薬剤師の立場で地域のユニークな喫煙防止教育に取り組んでいる加藤淳さんから豊富な実践例をお聞きします。参考になる点がたくさんあると思います。

楯岡中学の養護教諭である土屋隆子さんからは、自分の将来を前向きにとらえてとてもポジティブな気持ちにしてくれる喫煙防止教育の実践をお聞きします。脅かしや怖いスライドを見せる教育ではなく、夢や将来設計などの新しい視点からの教育のヒントがあると思います。

産婦人科の伊藤真理子さんからは、レディースクリニックでの禁煙指導の取り組みをお聞きします。妊娠出産などを通じて、子どもにとっても関係する最前線からの、取り組みがきけると思います。

福島からの 3 演題もとても興味深い内容が並んでいます。充実した内容の講演になると期待しています。

二部では、山形市議会議員の高橋公夫さんから、山形市子どもの受動喫煙防止条例の制定についてお聞きして、別の自治体でも同様の条例を作るためのヒントをお聞きします。直接の担当者から、条例制定の苦労や打開策などをお聞きできると思います。

他の県の団体とオンラインイベントで開くことは、コロナ以前では考えにくいことでした。昨年は、くまもと禁煙推進フォーラムとの合同勉強会を行い盛会でした。新しい時代の流れを活動の活力にして、今回のイベントが、相互の交流や活動の活性化につながることを期待しています。

<https://www.y-smokefree.net/>

受動喫煙のない社会を子どもたちに贈りたい

ご挨拶

Tobacco-free ふくしま 代表 齊藤道也

イエローグリーンは、「受動喫煙をしたくない・させたくない・大切なひとをタバコの煙から守りたい」というあなたの気持ちをあらわす色です。

福島県においては 2020 年 4 月からの改正健康増進法の全面施行を機に、受動喫煙防止対策の県民運動として福島県医師会、自治体、多くの企業、賛同団体とともに積極的にイエローグリーンリボンの着用と県内のランドマークタワー、病院、企業のライトアップを主体とするイエローグリーンキャンペーンを展開してまいりました。

さらに 2021 年 4 月の「ふくしま受動喫煙防止条例」制定を追い風に福島県医師会平成 4 年度事業計画にも新たに受動喫煙対策推進が組み込まれ、2022 年度からは福島県タクシー協会加盟各社のタクシー 2500 両がボディーにイエローグリーンリボンシールを貼って県内を走行し、ライトアップ参加企業も急増することから活動はさらなる飛躍が期待されています。

私共の社団『Tobacco-free ふくしま』は 2021 年春に発足した若い団体です。今回、長年の活動実績のある山形県喫煙問題研究会の皆さんと WEB での講演会、イエローグリーンキャンペーンを全国へ一緒に発信できること、この上ない喜びであります。今後両県が核となってさらにうねりある活動となりますよう、皆様のご支援、ご協働を心からお願い申し上げます。

山形で行っている喫煙防止教室～専門職の立場から～

天童・東村山地区薬剤師会理事 おいのもり調剤薬局 加藤 淳

喫煙防止教室は医療専門職であれば誰でも実施が可能で、禁煙推進活動の中では参加へのハードルが低い分野であると思います。私は薬剤師として喫煙防止教室や薬物乱用防止教室（タバコ含む）を小・中・高・大学で計 50 回以上行ってきました。これらの活動内容を初級編、中級編、上級編と 3 つに分けてお話しします。

introduction

専門職が喫煙防止教室を行う意義

① 学校講話の基礎

- ・学会発表と学校講話の違い
- ・ジェネレーションギャップについて
- ・Web 講演での Google フォームの活用
- ・興味を持って聞いてもらうコツ
- ・学校から次回も依頼をもらう方法など

② さまざまな協働

- ・市と協働で行っている小・中学校での喫煙防止教育や受動喫煙防止の取り組み
- ・有名スポーツ選手とのコラボ喫煙防止教室（For Your Future 夢のための選択）
- ・地域の薬剤師との協働

③ 啐啄同時

啐啄同時（そったくどうじ）とは文字通り、鳥の雛が卵から生まれ出ようと殻の中から卵の殻をつついて音を立てた時、それを聞きつけた親鳥がすかさず外からついばんで殻を破る手助けをすることを意味します。これが「啐」と「啄」の関係です。互いが響同＝協同し合った時、新しい何かが誕生するのです。

in conclusion

おわりに（ひとこと）

【略歴】

東北薬科大学（現東北医科薬科大学）薬学部卒

病院勤務などを経て、現在おいのもり調剤薬局薬局長

天童・東村山地区薬剤師会理事

山形県喫煙問題研究会理事

天童市受動喫煙防止対策検討委員会初代委員（現在は退任）

日本禁煙学会認定 専門指導薬剤師

山形で行っている喫煙防止教育の実践例 ～輝く未来をつくる行動と選択～

山形県 村山市立楯岡中学校 養護教諭 土屋隆子

1. はじめに

本校は「学ぶ」「響く」「琢く」を校訓として掲げ、平成17年に市内の3校が統合して新設され、今年度で開校17年目を迎える。学級数15（普通学級12 特別支援学級3）全校生360名の中規模校である。校訓のひとつである「琢く」では、「仲間を認め自分のよさを最大限に生かし、高みを目指す自己管理力の育成」を具体目標に掲げている。具現化の対策として生活習慣改善を軸とした健康づくり「楯中パワーアッププロジェクト」をあげ、健康教育の役割を明確に学校経営に位置付けている。喫煙に関わる問題については、生徒の将来と健康に密接に関連しているものである。そこで、本校ではキャリア教育の視点からの学びの機会を用意し、より自分事として長期的なイメージを持って思考できるようにしている。

2. 活動のねらい

- (1) 学校薬剤師からタバコ（新型タバコも含む）の健康被害やリスクについての講演を通して正しい知識を得て、適切な選択と行動ができる力をつける。
- (2) プロ選手になる夢を叶えた秋葉氏から、生活習慣や健康管理に関して、実行してきたこと等をお聞きする。その中で、さまざまな選択が未来の夢を叶えることにつながっていることを学び日常生活に活かしていけるようにする。

3. 実践内容

- (1) 喫煙防止教室の実施（対象：中学2年生 令和3年度は11月に実施）

依頼した講師 ・学校薬剤師 八鍬 信子 氏

・モンテディオ山形ジュニアユース村山監督兼スクールコーチ 秋葉 勝氏

薬剤師からタバコに関する正しい知識を教えたいただいた後に、地元プロサッカーチームで以前活躍していた秋葉勝氏に話をしていただく。彼は中2の時に友達にタバコを勧められた経験があるという。しかし、自分の夢をかなえるためにその誘いを断った。自分で判断し行動することの意味を自身の体験を通して語ってくれた。

授業終了後は「夢をかなえる健康宣言」として自分の考えをまとめる活動を実施した。

- (2) 教育活動全体の中での健康教育の推進

よりよい生活習慣の継続を目指した「楯中パワーアッププロジェクト」（7年目）に年間を通して取り組んでいる。自分の生活習慣と体調が密接につながっていることを学んでいる。自分自身が学校生活を気分よく過ごし、成長していけるよう日々の生活工夫しながら過ごす体験を通してセルフコントロールすることを学んでいる。

4. 成果と課題

- ・授業終了後に記入した「夢をかなえる健康宣言」ではタバコを吸わないと答えた生徒が95%であった他、規則正しい生活習慣を継続したい等と具体的な生活に関する内容をあげる生徒が半数、自分自身の夢の実現や生き方について宣言する生徒が70%を超えた。喫煙可能年齢を超えた時の姿をイメージできたことは大きな成果である。
- ・新型タバコが発売され、タバコに対するイメージが変化している実態がある。喫煙を継続する大人の中で暮らす生徒もいる中で、どんなアプローチが有効か引き続き模索していきたい。

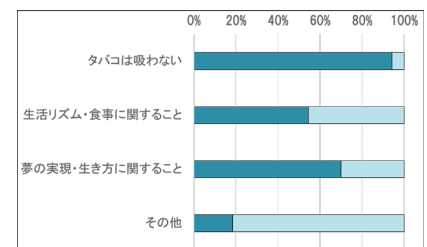


図1:健康宣言の内容

5. 略歴

1987年 山形大学養護教諭特別別科卒業

1987年 山形県教職員 養護教諭として県内公立の小中学校に勤務

2015年～ 現在 村山市立楯岡中学校勤務

受賞歴 2005年 喫煙防止教育教材「がんばれ！はむっち」全国自作視聴覚教材コンクール入選

2007年 同 「はむっち病院たんけん」 同 入選

レディースクリニックでの禁煙のオススメ ～未来の笑顔のために～

真理子レディースクリニック

伊藤 真理子

タバコの健康への害は広く知られているところですが、さらに女性ならではの影響は、計り知れません。喫煙女性の寿命は10年短縮し自立期間も短くなります。女性ホルモンの変動や減少により生活習慣病の増加、骨粗鬆症の増加などの大きな原因となります。

若い頃よりの喫煙の影響で、女性の内分泌環境は大きく乱れ、月経困難症や月経不順など月経障害が多いことも知られています。また子宮がんや乳がんなど女性特有の悪性疾患の罹患率や死亡率も高まり、様々な婦人科疾患の増加にもつながります。

昨今増加している子宮内膜症の予防と治療に有効とされる低用量ピルは、月経コントロールも含めて女性のQOLを高めるのに画期的であることは知られています。ただし喫煙により、低用量ピルの最大のリスクである血栓症が有意に増加します。35歳以上で1日に15本以上の喫煙者は、低用量ピル内服禁忌とされています。恩恵を受けられず子宮内膜症が進行すれば妊娠にも影響が及びます。

喫煙は妊娠・出産・育児にも多大な影響を及ぼし、中には産科救急疾患も数多く含まれます。出産後の子供の健康にも深刻な影響を及ぼします。乳幼児突然死症候群の一因ともされています。さらに心身不安定な母親は育児も不安定になりがちであり、虐待にもつながりやすいと考えられます。女性の喫煙は子供の受動喫煙にも繋がり、子供の健康と笑顔を妨げることにもなってしまいます。

女性は男性に比べて禁煙しづらく、再喫煙しやすいと言われます。一方で、妊娠出産という禁煙の大きなきっかけとなるチャンスがあります。本日は、レディースクリニックの日常診療で、御声がけしているタイミングについてお話ししたいと思います。

喫煙者は 実は禁煙をオススメするお声がけを待っています。御声がけの一言が 患者さんのその時の心に響けば 禁煙したいと思ってくれるようです。ですので、それぞれの御立場で、皆様にも禁煙のお声がけに さらに励んでいただきたいと希望してやみません。

【略歴】

1986年山形大学 医学部卒業

1994年 山形大学大学院（医学研究科博士課程）卒業

横浜市立大学病院 山形大学附属病院 篠田総合病院

2005年 真理子レディースクリニック院長

【専門領域】産婦人科専門医

日本禁煙学会認定専門指導医師

（禁煙学会母子保健部会）

（山形喫煙問題研究会理事）

日本思春期学会性教育認定指導者

日本骨粗鬆学会認定医師

日本医師会認定産業医

イエローグリーンキャンペーンのあゆみ

労働者健康安全機構 福島労災病院

西郡 里美

Y G（イエローグリーン）キャンペーンは、日本禁煙学会学術総会福島大会を契機として、大会実行委員会が立ち上げ、昨年からは一般社団法人 Tobacco-free ふくしまと福島県医師会が活動の主体です。九州、関西で始まったこのリボン着用、ライトアップは福島県で大きく躍進し全国へ拡大する兆しを見せています。

県内4ヶ所の東北電力鉄塔、火力発電所大煙突、病院や企業、自治体庁舎のライトアップ箇所は今年さらに県内各地で増加しています。

特筆すべきは、福島県タクシー協会加盟の全てのタクシー車両に2500台にY Gリボンシールが貼られ、県内を走行することです。これは全国で初めての全県的取り組みで、タクシー協会の中央組織から情報発信され、全国へ広がりが期待されています。また、東北ゴルフ練習場協会加盟、東北6県内24施設はY Gキャンペーンに呼応しライトアップ、ポスター展開をいたします。

いわき市では、いわき駅前ラトブ、鹿島ショッピングセンターエブリア、イオンモールいわき小名浜では、6月4日土曜日に3カ所同時に街頭キャンペーンを行います。特に駅方向に向くラトブの東北最大のLEDビジョンは、期間中Y Gに輝く情報を繰り返し映し出します。

スーパーマーケットチェーンとしてはマルトグループに加えヨークベニマルも今年から参加しますので、多くの皆様の目に触れる機会が増えると思われます。さらに、明治安田生命J3リーグにおいては、5月29日いわきFC、6月5日福島ユナイテッドFCのホームゲームでイエローグリーンマッチを開催、今後は1部リーグ昇格目前のバスケットボールチーム福島ファイヤーボンズともコラボしていく予定です。

このようにY Gキャンペーンは多くの皆様のご協力のもと確実に広がりをを見せています。

今後県内各家庭への啓発を継続することによって県民健康指標の向上に少しでも役立つよう活動していきたいと思いをします。

喫煙防止の裾野を広げるがん教育動画

福島県医師会常任理事 みちや内科胃腸科胃腸科 齊藤道也

この数日朝から誰ひとり喫煙している姿を見ていません。公共のタバコの吸える場所はなく、買い物に行く大型ショッピングモールでも新型コロナ感染症拡大防止の配慮から喫煙所は閉鎖されたままです。これに対し声高に文句や反対意見をいう者などいまや見当たらず、一見社会からタバコそのものが消えてしまったかのように感じることもさえあります。

しかし、全世界を見れば喫煙人口の89%が25歳までに喫煙を開始し、喫煙は男性における死亡の危険因子第1位、上位10カ国で世界喫煙人口の3分の2を占め日本は世界第7位の喫煙大国である現状を直視せねばなりません。

厚生労働省『最新たばこ事情』の統計情報(2020.12更新)でみると、現在習慣的に喫煙している人は16.7%(男性27.1%、女性7.6%)おりこの10年間で有意に減少したところが報告されていますが、男性の約3割が今も習慣的喫煙者であることは明らかです。この数値の実感を解りにくくしているのが、新型加熱式タバコ使用者の急増で、家庭や身近な環境で静かに受動喫煙問題は進行し続けています。

これらの根深い喫煙問題を根底から変えていくには、早期の喫煙防止教育が重要であることは最早言を俟たないと存じます。

日本人の3人に1人ががんになる時代だからこそ、国や自治体はがん教育を早期から進めることを推進しています。とすれば、小児の一定時期にがんの正確な基礎知識を繰り返し伝えることで、おのずとその原因たる身近なタバコの持つ大きな問題に目を向けざるを得ない、これが喫煙防止対策の大きな柱の一つであると確信しています。

以下のアドレスはいわき市医師会がいわき市と多くの皆さんの協力を得て作成した動画で、いわき市のYouTube いわきの極意にアップされ福島県医師会HPからもご覧になれます。実際に市内で子供から大人までのがん、タバコ問題啓発に使用され、ワクチン接種会場では接種後待ち時間にも供覧されます。どうぞご利用ください。

がんでなんだ？一緒に考えよう！その1 約12分

https://www.youtube.com/watch?v=-cMSwgkh0_c

がんでなんだ？一緒に考えよう！その2 約9分

<https://www.youtube.com/watch?v=ZGUuePK0CoI>

【略歴】

日本禁煙学会理事 福島県医師会常任理事

いわき市医師会副会長 東日本国際大学客員教授

Tobacco-free ふくしま 代表理事

法医学からみた喫煙問題 ～タバコの有無で大違い！人生の最期～

福島県立医科大学 医学部 法医学講座 准教授 西形里絵

私は法医学者として法医解剖や死体検案などの業務に従事しています。当講座の法医解剖・検案対象者 1187 名（2017～2021 年）について喫煙習慣の有無を調査しました（19 歳以下や喫煙習慣不明者を除く）。性別や年代別に算出したところ、20 代・70 代男性ではほぼ半数、30～60 代男性では過半数が喫煙者で、特に 50 代男性では 7 割を占めました。40 代女性では 6 割、50 代女性では半数が喫煙者で、90 代超の女性を除くすべての年代で男女とも一般集団よりも高い喫煙率でした。

解剖・検案対象者で喫煙率が高い理由は、自殺者・精神疾患患者・危険労働従事者で喫煙率が高いこと、大酒家の喫煙率が高く酩酊下の事件や事故が多いこと、喫煙者の多くは退廃した生活（孤独・貧困・病院嫌い・栄養失調・施錠不完全・違法薬物）のため異状死しやすいこと、タバコ火の不始末による火災が多いことなどが挙げられます。

受動喫煙の影響を特に受けやすい 13 歳以下の法医解剖例 33 名（2019～2021 年）について調査したところ、同居家族に喫煙者がいる割合は 7 割を占めました。

健康増進法が改正され、喫煙者には配慮義務が課されるようになりましたが、まだ不十分です。タバコは不幸しか生みません。まずはタバコの大幅な値上げで喫煙率を下げ、受動喫煙に刑罰を科し、最終的にはあらゆるタバコの違法化を強く求めます。

【略歴】

2004 年 3 月 福島県立医科大学 医学部 卒業
2004 年 4 月 福島県立医科大学附属病院 初期臨床研修医
2006 年 4 月 福島県立医科大学 医学部 第一外科
2006 年 10 月 福島赤十字病院 外科 2007 年 4 月 公立藤田総合病院 外科
2009 年 4 月 福島県立医科大学大学院 博士課程 入学 2013 年 3 月 同 修了
2013 年 4 月 福島県立医科大学 医学部 法医学講座 助教
2016 年 10 月 福島県立医科大学 医学部 法医学講座 講師
2018 年 10 月 福島県立医科大学 医学部 法医学講座 准教授

【所属学会・委員会等】

- ・日本法医学会 評議員
- ・日本法医病理学会 会員
- ・日本犯罪学会 会員
- ・日本病理学会 会員
- ・日本甲状腺学会 会員
- ・日本禁煙学会 会員
- ・日本禁煙推進医師歯科医師連盟 会員
- ・一般社団法人 Tobacco-free ふくしま 監事
- ・福島県自殺対策推進協議会 委員
- ・福島市医師会たばこ対策委員会 委員
- ・福島市受動喫煙防止対策推進委員会 委員

無煙社会実現への次の一手

コーディネーター 福島県立医科大学医学部法医学講座教授

黒田直人

このセッションでは、山形市議会・高橋公夫議員と福島県医師会・八巻秀一事務局長をお招きし、直に経験なされた受動喫煙防止への困難な道程と打開策について語って頂きます。八巻局長からは、一昨年福島県で開催された禁煙学会を契機とした活動のサポートの様子を、また高橋議員からは、「山形市子どもの受動喫煙防止条例」の全会一致による可決はいかにして実現できたのかについての示唆に富んだご体験をお話します。

受動喫煙対策への福島県医師会のかかわり

福島県医師会事務局長 八巻秀一

福島県医師会は会員2,600名余を擁し、各種健康政策に関し、県内16郡市地域医師会と連携し、県民健康推進のため職員21名が日々活動しております。これまでも私はタバコ問題に関し Tobacco-free ふくしまの理事として関わってきたことから煙活動推進の一助になればと考え、福島県医師会としての最近の受動喫煙対策についての取り組みを紹介いたします。

ご承知のように福島県は平成23年の東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故により、健康被害の国際的関心の現場となったとともに、人口減少に拍車がかかり、産業振興に深刻な打撃を受けました。

以後、福島県医師会は、県民の健康維持増進（原発事故の影響によるメタボ率悪化の改善）や地域医療の復興に向け邁進して参りましたが、これまでは受動喫煙対策、タバコが引き起こす多くの医療問題に関しては、実際十分な対応がなされてこなかったように感じています。

しかし、令和2年11月に第14回日本禁煙学会学術総会が福島県郡山市において、佐藤武寿福島県医師会会長が大会会長として開催され、自治体、関連団体と問題共有、連携を図ることが大きな契機となり、受動喫煙対策への取り組みの機運が高まってきました。

以下、時系列でその取り組みの一端をご紹介します。

- ① イエローグリーンキャンペーン運動の協力依頼
- ② 福島県知事、福島県議会議長を訪問、活動内容を説明、イエローグリーンバッジを贈呈し、イエローグリーンキャンペーンへの協力依頼
- ③ イエローグリーンライトアップキャンペーンの参加を県内医療機関へ要請
- ④ 福島県医師会館のライトアップに初めて参加
- ⑤ 自民党県議会受動喫煙防止等条例制定に関するプロジェクトチーム勉強会での坪井永保福島県医師会常任理事が講演
- ⑥ 福島県議会内、附置委員会において齊藤道也福島県医師会常任理事が受動喫煙による健康影響に関し講演と意見陳述
- ⑦ 令和4年度福島県予算編成に対する要望、自民党県連予算要望聴取に対する要望として受動喫煙対策に関する予算化要望
- ⑧ 令和4年度福島県医師会事業計画へのタバコ問題に関連する内容を反映実現化
- ⑨ 受動喫煙対策の福島県医師会事業計画への盛り込みと予算措置実施

この間、福島県におきましては、ふくしま受動喫煙防止条例が令和2年制定、令和3年4月からは実施されています。

今後も福島県医師会と一般社団法人 Tobacco-free ふくしまが、車の両輪となり国内において、いまだ下位低迷の多い健康指標向上ため、実効性のある受動喫煙対策に取り組んでまいりたいと思います。

【略歴】

一般社団法人 福島県医師会事務局長

一般社団法人 Tobacco-free ふくしま理事

「子どもの受動喫煙防止条例の制定」の輪を広げるために

山形市議会議員 高橋公夫

はじめに

「山形市子どもの受動喫煙防止条例」は、議会提出議案として2020年10月に全会一致で可決され、2021年3月から施行されました。受動喫煙から、子どもの健康を守るために、行政や市民が、様々な対策に努めるように努力義務が課されています。公園や学校周囲の他、子どもの同乗する自動車内での喫煙防止などが具体的なポイントとして記載してあります。（詳細はWeb検索へ）

●山形市「子どもの受動喫煙防止条例の制定」の経緯

発端は、2017年山形市医師会禁煙推進委員会（山口佳子委員長）が発足し、活動目標として、「山形市の受動喫煙防止条例制定」を取り上げたことです。

すぐに、医師会名で、市議会議員に要望書を提出するも進捗がなく、委員と懇意の私たちへ相談がありました。

打開策として、1）医師会以外の医療団体と一緒に、市長へ要望書を提出すること、2）紹介議員として、影響力のある与党議員や長老議員、女性議員などを紹介、3）マスコミを入れて、要望活動を周知することの3点を提案しました。内容も、山形県が受動喫煙防止条例を制定後だったので、子どもに絞った条例の方がよいとの判断にいたりしました。2018年に市長あてに医療四団体で条例制定の要望書を、マスコミを入れて提出しました。議会質問も複数回行われたものの、事態は進捗しませんでした。

成立を急ぐために、議会提案で制定を目指す方へ変更しました。2019年、賛同する議員が議長就任した点、「条例制定のための議会勉強会」を組織でき、議会の全グループから世話人を出してもらった点など、全会一致での議会通過の下地を作りました。厚生委員会での先行事例視察、医師からの受動喫煙に関する議会内勉強会も複数回行い、共通認識が持てるように努めました。罰則や法令の問題、コンビニの取り扱い、受動喫煙後45分の二次喫煙の問題など様々な観点から10回委員会を開催し検討し、条文をまとめました。

2020年9月定例議会に議員提案として上程され、全会一致で可決されました。

（参考：山形市での議員提案による政策条例は、これまで、日本酒で乾杯を推進する条例のみです）

●議員提案条例を実現させるためのポイント

他の自治体で同様の条例を作るために、1）全会一致の枠組みをいかに作るかを戦略的に考える、2）医師会と密に連携して議会勉強会などを通して受動喫煙の害に対して正確な知識をみんなで共有する、3）条例に対する「気持ちのある人」をまとめて賛同を上手にとるなどが、ポイントになると思います。

市は、チラシ、ポスター、ミニのぼり等を作成しました。子ども用チラシも作成し、小中学校児童に配布し、飲食店への講習会でも受動喫煙防止の啓発を行っています。今後、受動喫煙に関するアンケート調査も計画し、現状把握に取り組む予定で、市長が積極的に周知啓発していくと発言しています。議員として行政監視も可能になります。条例が行政を動かし、受動喫煙に対する社会の意識を変えていくのだと考えています。



条例のポイント

1. 子どもが同乗している場所では、喫煙をしないよう努めなければならない。
2. 子どもが同乗している場所では、喫煙をしないよう努めなければならない。
3. 喫煙禁止の場所として、子どもの受動喫煙防止のために努めなければならない。
4. 喫煙禁止の場所として、子どもの受動喫煙防止のために努めなければならない。

■略歴

S30 年生まれ。幼少時、ポリオにり患。下肢麻痺が残りました。

S54 法政大学卒

S54 日本電信電話会社

H20 山形市身体障害者福祉協会 副会長

山形県障がい者スポーツ協会理事

H23 山形市議会議員～（現在3期）

R1～ 市議会 厚生委員会委員長、環境建設委員会委員長など。

■現在の取り組んでいること

三歳児検診の斜視検査（SVS 導入）などの幼児検診の改善、寡婦以外のsingleの人への補助など、に取り組んでいます

■表彰

H30 日本身体障害者団体連合会会長表彰

R1 山形県身体障害者福祉協会会長表彰（安達賞）など多数

実行委員

【福島】 齊藤道也、坪井永保、黒田直人、八巻秀一、西形里絵、
西郡里美、菅原秀樹、風間咲美

【山形】 大竹修一、斎藤純一、川合厚子、伊藤真理子

入会申し込み <https://www.y-smokefree.net/contact8-1>

編集：川合厚子



このような資料も作成しています。全国から
申し込みのある隠れたベストセラーです。
ダウンロードもできます。 https://www.y-smokefree.net/_files/ugd/30c0b1_f0afb1393f24408fa96fbe586cfbd232.pdf



禁煙はSDGs



3 すべての人に健康と福祉を



TARGET 3.A



IMPLEMENT THE WHO FRAMEWORK CONVENTION ON TOBACCO CONTROL

目標 3：すべての人に健康と福祉を

ターゲット 3.a：すべての国々において**タバコの規制**に関する世界保健機関枠組条約（WHO FCTC）の実施を適宜強化する

タバコ病 受動喫煙被害による早死 超過死亡
医療費の増大と非効率化 子どものタバコ誤飲
葉タバコ農家の緑タバコ病（職業性ニコチン中毒）

1 貧困をなくそう



衣料・食費・住宅費・教育費・医療費がタバコ代に消費される
貧困→低教育→喫煙→さらなる貧困の連鎖

2 飢餓をゼロに



喫煙者の食費がタバコ製品に消費される
葉タバコ生産で食糧耕作面積が減少・脱森林化→洪水→表土流出→耕地面積減少→飢餓→森林伐採加速と木材の現金化の悪循環

4 質の高い教育をみんなに



教育費がタバコ消費へ
受動喫煙による学習能力低下
葉タバコ農園の小児労働・学習機会剥奪

5 ジェンダー平等を実現しよう



喫煙率の性差によるジェンダー不平等
女性の受動喫煙被害の存続
妊娠・周産期における母児の受動喫煙被害

6 安全な水とトイレを世界中に



原料生産国：葉タバコ栽培に用いる農薬・化学肥料による土壌と飲料水の汚染
脱森林化による保水力低下 河川堆積物増加 干ばつ 洪水の反復

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



依存性薬物の製造に貴重なエネルギーを浪費
葉タバコの乾燥に木材を使用し
脱森林化を加速

8 働きがいも経済成長も



喫煙勤労者のタバコ病 早死と労働人口減少
労働生産性の低下 労働災害の増加
受動喫煙被害 葉タバコ農園の搾取
小児労働 職業性ニコチン中毒

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



タバコ製品の原料生産国は中低所得国
タバコ産業・葉タバコ農園主による経済的な植民地支配・労働搾取とインフラ構築の遅延

10 人や国の不平等をなくそう



タバコは格差を生む原動力
喫煙者の健康被害・経済的損害・低教育が喫煙者・健康者間の不平等を増強
低～中所得国で喫煙率が高い

11 住み続けられるまちづくりを



職場・家庭・公共空間の受動喫煙被害
吸い殻のゴミ問題 タバコの失火による火災
喫煙施設が貴重な公共スペースを専有

12 つくる責任 つかう責任



タバコ製品は持続不可能な工業製品
製造・消費に伴う 環境破壊・人権侵害
タバコ農園・タバコ工場の廃棄物・吸い殻

13 気候変動に具体的な対策を



葉タバコ栽培とタバコ製品の製造が脱森林化や温室効果ガス発生を招き
気候変動を加速

14 海の豊かさを守ろう



吸い殻による海洋汚染
フィルターのマイクロプラスチック

15 陸の豊かさも守ろう



葉タバコ耕作による脱森林化・洪水
表土流出・農薬・化学肥料による汚染
土壌の劣化と生物多様性の低下

16 平和と公正をすべての人に



タバコ産業が主導する密輸
葉タバコ農園での子どもの虐待
小児労働・労働搾取・緑タバコ病の放置

17 パートナースHIPで目標を達成しよう



タバコ税課税強化とタバコ規制推進について
各国・各組織間の協調を維持・強化する



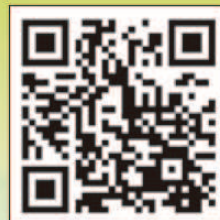
子どもたちに 受動喫煙のない未来を贈ろう

5月31日は世界禁煙デー

2022年
5/29日
14:00-16:30

令和4年度

世界禁煙デー 山形福島合同イベント



福島県医師会館と山形市市民活動支援センターを結んでのウェビナー発信

第一部 講演 14:10-16:10

- | | | | |
|------|---------------------|--------------------------|-------|
| 演題 1 | 山形で行っている喫煙防止教室 | 天童・東村山地区薬剤師会理事 おいのもり調剤薬局 | 加藤 淳 |
| 演題 2 | 山形で行っている喫煙防止教室 | 楯岡中学校養護教諭 | 土屋 隆子 |
| 演題 3 | レディースクリニックでの禁煙のオススメ | 真理子レディースクリニック | 伊藤真理子 |
| 演題 4 | イエローグリーンキャンペーンのあゆみ | 福島労災病院看護部長 | 西郡 里美 |
| 演題 5 | 喫煙防止の裾野を広げるがん教育ビデオ | 福島県医師会常任理事 | 齊藤 道也 |
| 演題 6 | 法医学からみた喫煙問題 | 福島県立医科大学医学部法医学講座准教授 | 西形 里絵 |

第二部 パネルディスカッション

「無煙社会実現への次の一手」
16:10-16:40

コーディネーター

福島県立医科大学医学部法医学講座教授
黒田 直人

パネラー

福島県医師会事務局長 八巻 秀一
山形市議会議員 高橋 公夫

コメンテーター

郡山薬剤師会理事
調剤薬局ミッテル本部部长 菅原 秀樹
山形大学医学部公衆衛生学・衛生学講座教授
今田 恒夫

山形と福島の一両県での、喫煙防止教育や、禁煙の取り組みを学ぶために、先進的に取り組んでおられる6名の方の講演を企画しました。互いの活動を共有して、連携して地域の禁煙推進に取り組むパワーとしましょう。

二部では、山形市の子どもの受動喫煙防止条例の紹介や、福島県医師会の活動をお聞きして、次の活動につながるヒントを議論します。ご参加ください。

事前の申し込みが必要です。QRコードから申し込みください。
問い合わせ office.ykk@gmail.com

世界保健機関(WHO)は、5月31日を世界禁煙デーと定めました。
2022年のグローバルキャンペーンは「タバコ;環境への脅威」
“Tobacco: Threat to our environment”です。

年間 84 メガトンの二酸化炭素換算の温室効果ガスを排出するタバコ産業は、気候変動の原因となり、気候変動への耐性を低下させ、資源を浪費し、生態系にダメージを与えています。毎年、約 350 万ヘクタールの土地がタバコ栽培のために破壊されています。タバコの栽培は、発展途上国では森林破壊の原因となっています。
(日本WHO協会文章より引用)

地球環境のため、禁煙を勧めましょう。

主催 NPO法人山形県喫煙問題研究会 www.y-smokefree.net/ Tobacco-free ふくしま
共催 福島県 福島県医師会
後援 山形県 山形県教育委員会 山形県医師会 山形県歯科医師会
山形県薬剤師会 山形県看護協会